

科目	異文化理解演習B(中国語圏)	担当	盧 聰明・野場 惇平	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位
<p><b>【授業目標・到達目標】</b>  個人の国際観の醸成や異文化を理解するためには、文献やメディアだけではなく、現地を訪問し、その国の文化や人々の生活、行動を見たり観察し、あるいはその空気に触れることが何より有効である。それ故に、このプログラムは海外でのスタディーツアー(実地研修)を含んでいる。異文化の体験と文化施設、企業見学により、現地事情の理解を深めて、国際の中における自己を知り、学生の国際視野を広げることを到達目標とする。また、事前の研修会において、学生による見学・訪問先の提案ができるようになっており、提携校訪問も実施するので、海外の提携大学の学生との親善交流を行い、現地大学生と知り合うことができる。近年、期間中に名古屋のNGO団体と現地で環境保護の啓蒙運動も行うので、国際社会貢献活動を体験するにもなる。</p> <p><b>【履修注意】</b>  中国語圏の台湾スタディーツアーの開催時期は春休みの期間中に行う予定である。年度内の計画段階で参加者の募集が行われる。募集人数は20人以下とし、参加者が最低の人数に達しない場合には、実施しない場合もある。旅費や現地への渡航費などは原則的に自己負担とする。単位希望の受講者は事前研修も含めて参加すること。</p> <p><b>【評価方法】</b>  事前・事後の研修と出席状況、レポート内容により、総合的に判定する。</p> <p><b>【試験について】</b>  実施しない。  再試験対象者の条件：再試験は行わない。</p> <p><b>【予習・復習】</b>  研修プログラム内容や訪問・見学先の背景などについて、事前に配布した資料や訪問・見学先のウェブサイト情報により予習しておくこと。現地研修後の資料整理や発表準備、レポート提出のための復習も行う。</p> <p><b>【教科書】</b>  購入教科書なし。</p> <p><b>【参考書】</b>  書籍名：『異文化トレーニング』著者：八代京子他、出版社：三修社。  その他、現地ガイドブック、講義プリントなど。</p> <p><b>【その他の注意事項】</b>  日本国籍以外の受講者の場合、台湾入国許可証やビザ代は別途の負担となる。現地の気候、訪問先の都合などにより日程の変更が生じる場合もあります。中華人民共和国の留学生の台湾訪問に必要な入台証の申請先は <a href="https://coa.immigration.gov.tw/coa-frontend/overseas-foreign-china">https://coa.immigration.gov.tw/coa-frontend/overseas-foreign-china</a> (内政部移民署境外人士線上申辦系統) である。</p> <p><b>【授業計画・内容】</b>  《29年度の予定》  一、開催時期：12月に最初の説明会を開催し、実地研修は3月上旬の1週間。  二、訪問先：提携校、ハイテックパーク、企業、文化古跡と名勝(主に新竹市、台北市、台中市)など  三、主な内容：  1. 提携校訪問・学生・文化交流、ランタン祭り見学。  2. 現地企業訪問・経営者との交流会。  3. 「食は台湾にあり」、料理を通して、中華文明(文化)の奥の深さを学び、中華料理も堪能する。  4. 中国語会話講座の体験と実践 など。  学内の事前・後の研修と現地研修の予定は次の通りである。  1)事前研修内容(7コマ)  プログラム概要、現地研修の意義、スタディーツアー目的、出入国手続きと海外保険、日程表の確認、現地の文化と生活習慣、現地の基本理解、ガイドブック配布、自己PR表の作成、訪問先の概要などについての説明と、日本文化と交流テーマの実演練習、パワーポイントファイルの説明準備、日本語・日本文化研修プログラムで来日中の留学生や在籍中の留学生との交流会など。  2)現地研修(一週間程度)  提携大学を訪問し、現地の日本語などの授業見学を行う。お互いの文化・音楽演出による学生交流、市内の文化施設を見学する。台湾の場合、企業経営環境を観察する他、故宮博物院、101ビルなどの文化施設と観光スポットを訪問し、現地文化への理解を深める。夜は屋台料理などを堪能する。なお、現地事情などにより、プログラム内容の入替と変更がある。  3)事後研修と成果発表(3コマ)  レポートと現地への礼状作成など、研修の成果をゼミ内や大学HPなどで公開・発表する予定。</p>					